

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 市4

船橋市立船橋高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

人物に優れ、積極的な学習意欲を持ち、入学後も本校で以下のいずれかの特色を発揮できる者

ア 学習成績が特に優れ、本校の進学類型等に興味・関心があり、授業に積極的に取り組む意欲があること。

イ 英語において高い能力を有し、本校の国際交流活動や国際教養コースに興味・関心があり、その資質をさらに発展させる意欲があること。

ウ スポーツ活動で優れた実績又は資質を有し、体育・スポーツ活動での特色を引き続き発揮できること。

エ 文化活動・音楽活動・生徒会活動等で優れた実績を有し、自己の資質をさらに発展させる意欲があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 自己表現	次のア・イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 日本語による自己アピールあるいは英語による自己アピール。日本語による自己アピールの場合は、音楽活動に関するアピールかそれ以外のアピールのどちらかを選択。 実施形態：個人で発表 検査時間：3分 イ 実技（運動）による自己表現 次の種目のうち一つを選択 ソフトボール・陸上競技（長距離）・陸上競技（短距離） バスケットボール・サッカー・バレーボール・剣道・柔道・体操競技 その他（基礎的運動等） 実施形態：個人で発表 検査時間：3分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値に、イ～オについて加点（上限75点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 5教科における学習の記録	国語，社会，数学，理科及び外国語の全学年の合計で順位を付け，順位に応じて加点する。
ウ 特別活動の記録	生徒会長，生徒会本部役員に応じて加点する。
エ 部活動の記録	全国大会，関東大会，県大会8位以上，県大会出場及び同等の大会，各種コンクールの出場について大会規模に応じて加点する。
オ 特記事項	3級以上の英語検定について加点する。また，学校外のスポーツ・文化活動等において顕著な成績をおさめた者については，「エ 部活動の記録」と同様に加点する。

(3) 自己表現 次のア，イについて，それぞれ2名の評価者が，2つの評価項目ごとに，各評価基準に基づき，v（極めて優れている）・s（優れている）・a（良い）・b（標準的である）・c（問題がある）の5段階で評価し，2名の評価者による，評価項目ごとの評価の組合せ（vv～cc）で得点化する。〔120点満点〕

ア 口頭による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 表現内容	自己の経験や今後の取り組みについて，しっかりと表現できている。
(イ) 意欲・将来性	意欲的に表現している。将来にわたり活躍を期待できる。

イ 実技（運動）による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 表現内容	基礎的及び専門的な運動能力を身に付けている。
(イ) 意欲・将来性	意欲的に表現している。将来にわたり活躍を期待できる。

#### 4 選抜方法

##### (1) 市内中学生優先入学制度

令和2年度船橋市立船橋高等学校第1年次入学者選抜要項において、「普通科において募集定員の一部について、本人及びその保護者が船橋市内に実際に居住し、中学校を令和元年3月卒業見込みの者を優先とする。」としている。

そのため、まず市内中学生を、普通科募集定員240名の20%程度まで確保するようにしている。

選抜方法は(2)に準ずる。

##### (2) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	自己表現	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	75点	120点	$(830 + \alpha - m)$ 点

（算式1） $\alpha$ ：県が定める評定合計の標準値95

$m$ ：中学校評定合計平均値

##### (3) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いほしない。

#### 5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、個人面接を行う。

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 市4

船橋市立船橋高等学校 全日制の課程 商業科

1 期待する生徒像

人物に優れ、商業に関する興味・関心と積極的な学習意欲を持ち、卒業後の進路についても意欲的に取り組む意志があり、入学後も本校で以下のいずれかの特色を発揮できる者

ア 学習成績に優れ、授業に積極的に取り組む意欲があること。

イ 商業的実技の資格又は資質を有し、自己の進路実現に向けて高度資格の取得や本学科の学習活動に積極的に取り組む意欲があること。

ウ スポーツ活動で優れた実績又は資質を有し、体育・スポーツ活動での特色を引き続き発揮できること。

エ 文化活動・音楽活動・生徒会活動等で優れた実績を有し、自己の資質をさらに発展させる意欲があること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者1名・評価者2名の個人面接 検査時間：1名3分
(4) 自己表現	次のア・イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 音楽活動に関するアピールかそれ以外のアピールのどちらかを選択し、日本語で自己アピール。 実施形態：個人で発表 検査時間：3分 イ 実技(運動)による自己表現 次の種目のうち一つを選択 ソフトボール・陸上競技(長距離)・陸上競技(短距離) バasketボール・サッカー・バレーボール・剣道・柔道・体操競技 その他(基礎的運動等) 実施形態：個人で発表 検査時間：3分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科(各教科100点満点)の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値に、イ～エについて加点(上限45点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 特別活動の記録	生徒会長、生徒会本部役員に応じて加点する。
ウ 部活動の記録	県大会8位以上、県大会出場及び同等の大会、各種コンクールの出場について大会規模に応じて加点する。
エ 特記事項	3級以上の検定試験(簿記、珠算、情報処理、英語)について加点する。また、学校外のスポーツ活動・文化活動等において顕著な成績をおさめた者については、「ウ 部活動の記録」と同様に加点する。

(3) 面接 2名の評価者が、2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、v(極めて優れている)・s(優れている)・a(良い)・b(標準的である)・c(問題がある)の5段階で評価し、2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ(vv～cc)で得点化する。[80点満点]

評価項目	評価基準
(ア) 応答内容	商業科への志望動機、興味・関心がうかがえる。
(イ) 態度	意欲がうかがえる。面接の基本的作法ができています。

(4) 自己表現 次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、v（極めて優れている）・s（優れている）・a（良い）・b（標準的である）・c（問題がある）の5段階で評価し、2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（v v～c c）で得点化する。〔120点満点〕

ア 口頭による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 表現内容	自己の経験や今後の取り組みについて、しっかりと表現できている。
(イ) 意欲・将来性	意欲的に表現している。将来にわたり活躍を期待できる。

イ 実技（運動）による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 表現内容	基礎的及び専門的な運動能力を身に付けている。
(イ) 意欲・将来性	意欲的に表現している。将来にわたり活躍を期待できる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接・自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）	加点	面接	自己表現	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	45点	80点	120点	$(880 + \alpha - m)$ 点

（算式1） $\alpha$ ：県が定める評定合計の標準値95

$m$ ：中学校評定合計平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

令和2年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 市4

船橋市立船橋高等学校 全日制の課程 体育科

1 期待する生徒像

人物に優れ、スポーツ活動に関する興味・関心と積極的な学習意欲を持ち、入学後も本校で体育・スポーツ活動での特色を発揮できる者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 適性検査Ⅰ	走力、跳力、投力の基礎的な検査 検査時間：5～10分程度
(4) 適性検査Ⅱ	次の種目のうち一つを選択 ソフトボール・陸上競技（長距離）・陸上競技（短距離） バスケットボール・サッカー・バレーボール・剣道・柔道 体操競技 実施形態：個人および集団 検査時間：30分程度（種目により異なる）

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書

評価項目	評価基準
教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。

(3) 適性検査Ⅰ 各種目を測定し、男女別に評価する。〔90点満点〕

評価項目	評価基準
基礎的な運動能力	基礎的な運動能力を身に付けている。

(4) 適性検査Ⅱ 2名の評価者が、2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、v（極めて優れている）・s（優れている）・a（良い）・b（標準的である）・c（問題がある）の5段階で評価し、2名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ（vv～cc）で得点化する。〔260点満点〕

評価項目	評価基準
ア 基礎能力	基礎能力を身に付けている。
イ 専門能力	専門能力を身に付けている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」，「調査書の得点」，「第2日の検査（適性検査）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。  
 <総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）		適性検査Ⅰ	適性検査Ⅱ	
500点	(135+α-m)点		90点	260点	(985+α-m)点

（算式1）α：県が定める評定合計の標準値95  
 m：中学校評定合計平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、個人面接を行う。